
天人峡地区再活性化に向けた基本構想

令和7年3月
東川町

1. 策定の趣旨・目的	2
2. 国立公園をめぐる動向	4
3. 東川町および天人峡地区の現況	10
4. 天人峡地区再活性化に向けた基本方針	22
5. 今後に向けたロードマップ	35
（参考資料）今後天人峡地区において活用が考えられる補助事業	38
（参考資料2）天人峡地区再活性化に係る書面アンケート結果	45

1. 策定の趣旨・目的

1-1. 策定の趣旨・目的

- 東川町は本来の素晴らしい自然景観や魅力が発揮できない状態にある天人峡地区において、再活性化に向けた取組を進めています。
- 上記を推進するにあたり、町のより具体的な取組方針を取りまとめたものとして、「天人峡地区再活性化に向けた基本構想」（以下、「本基本構想」とします）を策定します。
- 本基本構想に基づいて関係者間の共通認識を醸成し、令和7年度以降、可能な事業から早期着手を図ります。

本基本構想の趣旨・目的

- 天人峡地区は大雪山国立公園における重要な景勝地、滞在拠点の一つであり、かつては複数の宿泊施設が立地していました。しかしながら、現在は1件を除き実質的に休業・廃墟化し、景観や安全性を大きく損なう状況となっていました。その他展望台の崩落、登山道通行止め等、様々な課題により、**現在天人峡地区は本来の素晴らしい自然景観や魅力が発揮できない状態にあります。**
- 東川町では、上記のような状況を打開し、天人峡地区本来の魅力を一層引き出すための取組を進めています。令和5年度には観光庁「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」に採択され、天人峡地区の魅力向上に対する基本的な考え方を示す「天人峡地区再活性化に向けた基本方針」を策定しました。
- **令和6年度は、廃墟化したホテルの除却を進めるとともに、天人峡地区再生に向けたより具体的な取組方針を示す「天人峡地区再活性化に向けた基本構想」を策定します。**
- 本基本構想に基づき、令和7年度以降も本基本構想によって示された共通認識に基づき、関係者間で適切に連携・役割分担しながら、可能な事業から早期の着手を図ります。



2. 国立公園をめぐる動向

2-1. 考慮すべき法制度

- ・ 天人峡地区は大雪山国立公園内に位置し、地区内には保安林、河川、砂防施設等が立地しています。
- ・ したがって、自然公園法、森林法、河川法、砂防法等を考慮した上で再活性化を図る必要があります。

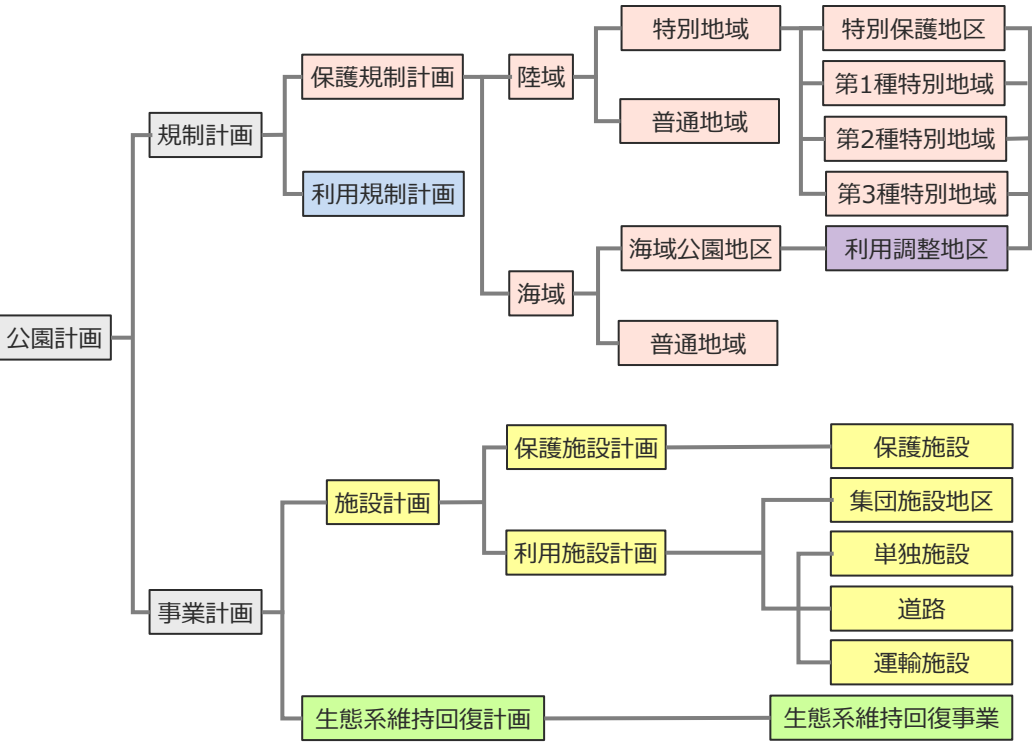
考慮すべき主要な法制度

法の名称	概要	考慮すべき事由
自然公園法	我が国を代表する優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的とする。	天人峡地区全体が大雪山国立公園内に位置するため、公園計画上の位置づけ等に基づき、可能な行為や必要な手続等を確認する必要がある。
森林法	森林の保続培養と森林生産力の増進とを図るため、森林計画、保安林その他の森林に関する基本的事項を定める。	天人峡地区は上川南部森林計画区に位置し、保安林を含むことから、森林の管理等に十分な配慮を行う必要がある。
河川法	河川について、洪水、津波、高潮等による災害の発生が防止され、河川が適正に利用され、流水の正常な機能が維持され、及び河川環境の整備と保全がされるようにこれを総合的に管理することを目的とする。	天人峡地区は一級河川である忠別川の上流域に位置するため、河川区域内の行為については許可申請等を要する可能性がある。
砂防法	土砂災害防止等の観点から、砂防施設等について定める。	天人峡地区には砂防施設が位置することから、砂防指定地内における行為制限等に配慮する必要がある。

(参考) 自然公園法の概要

- 自然公園内は特別保護地区、特別地域（第1種～第3種）、普通地域にゾーニングされ、地域により広域性の程度が異なります。
- 本基本方針の対象地域は大部分が第2種特別地域に属します。

公園計画の構造



保護規制計画における各地域の定義

地種区分	概要	備考
特別保護地区	特別地域内で特に嚴重に景観の維持を図る必要のある地域。	規制される行為については許可制
第1種特別地域	特別保護地区に準ずる景観をもち、特別地域のうちで風致を維持する必要性が最も高い地域であって、現在の景観を極力保護することが必要な地域。	規制される行為については許可制
第2種特別地域	特に農林漁業活動について、つとめて調整を図ることが必要な地域。	規制される行為については許可制
第3種特別地域	特別地域の中では風致を維持する必要性が比較的低い地域であって、特に通常の農林漁業活動については原則として風致の維持に影響を及ぼす恐れが少ない地域。	規制される行為については許可制
普通地域	特別地域や海域公園地区に含まれない地域で、風景の保護を図る地域。特別地域や海域公園地区と公園区域外との緩衝地域（バッファゾーン）といえます。	規制される行為については届出制

（出所）環境省「日本の国立公園 国立公園とは（歴史と制度）」（<https://www.env.go.jp/park/about/history.html>）

(参考) 大雪山国立公園 管理運営計画

- 大雪山国立公園管理運営計画（令和6年4月施行）においては公園の課題と、解決のためのビジョン、特別保護地域・特別地域において考慮すべき規制事項等が提示されています。天人峡地区再活性化においては、これらを踏まえて検討を進めるものとします。

大雪山国立公園の課題

(ア) 山岳地域の荒廃等

① 保全上の課題

気候変動や外来生物の流入による植生等の変化や、登山者の踏圧や集中豪雨による地形・土壌の浸食

② 利用上の課題

- 施設の荒廃と老朽化
- 不適切な野外でのし尿処理
- （特に多言語による）情報提供の不足
- 利用者間、利用者・管理者間で生じる問題

(イ) 利用拠点の低迷

① 体験型利用の取組

コト消費、「本物」の重視、SNS映えの重視等の近年の旅行形態の変化に対する対応が不足。既存の景勝地を再評価し、活かされていない観光資源を発掘し、それらがなぜこの土地でしか見られないのかなどのストーリーを整理、磨き上げた上で発信することが必要。

② 情報提供

旅マエ・旅ナカ双方で情報発信の充実が必要。また、外国人旅行者が満足できる多言語での情報提供も必要。

大雪山国立公園のビジョン

まもり、活かし、つなげよう
みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園

(1) 大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園を実現する

- 1) 山岳地域—大雪山グレードに応じた保全を進める
- 2) 山麓地域—多様な景観要素の保全を進める

(2) 魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園を実現する

- 1) 山岳地域—大雪山グレードに応じた管理と利用を進める
- 2) 山麓地域—利用体験の質の向上を進める

(3) つながっていく国立公園を実現する

- 1) 来訪者に向けた情報発信を進める
- 2) 大雪山国立公園に関わるすべての人々に向けた価値の発信を進める

(4) みんなが協働して管理運営する国立公園を実現する

- 1) 協働型管理運営体制を維持する
- 2) 管理運営への利用者の参加、周辺地域との連携を進める
- 3) みんなが学び成長し、将来世代へ引き継ぐ国立公園を実現する

(出所) 環境省「大雪山国立公園 概要・計画書」<https://www.env.go.jp/park/daisetsu/intro/index.html>

2-2. 国立公園活性化にかかわる動向

- ・ 近年国立公園では保護と利用の好循環による優れた自然の保護と地域活性化の両立が図られています。また、滞在体験の上質化や一貫した物語性が重視されています。
- ・ 天人峡地区においても同様に上質な体験の実現、物語性のあるコンセプトの提唱等が必要と考えられます。

国立公園に係る動向（観光分野）

国立公園満喫プロジェクト

- ・ 日本の国立公園のブランド力を高め、国内外の誘客を促進し、**利用者数だけでなく滞在時間を延ばし、自然を満喫できる上質なツーリズムを実現することを目指す。**
- ・ 地域の様々な主体が協働することで、国立公園の利用によって生み出された経済的効果の自然環境保全への再投資を図る。
- ・ 現在8公園を対象として選定し、国による交付金を受けながら情報発信の強化、アクティビティの充実、基盤的な利用施設の整備等に取り組んでいる。今後先行8公園での取組が全公園に展開されることが想定される。

国立公園における 自然体験コンテンツガイドライン

- ・ 全国の国立公園で提供される様々なコンテンツ（アクティビティや体験など）について、コンテンツを提供する事業者自らが「コンテンツ造成」、「安全対策・危機管理」、「環境への貢献・持続可能性」の3つの観点から、その質を確認することができるガイドラインを作成

国立公園ブランドプロミス

- ・ 2017年7月より、国立公園は**世界からのデスティネーション（目的地）となることを目指し**、統一マークやブランドメッセージ「その自然には、物語がある。」を設定し、ブランド化に努めてきた。
- ・ 上記の延長として、環境省と地域・関係者が共通して来訪者に約束する事項として「ブランドプロミス」を定めた。
- ・ 今後ブランドプロミスは国立公園のブランド戦略の根幹として、全ての国立公園の共通の管理運営指針に位置づけられ、個々の国立公園に関する取組方針に反映され、公園毎に必要な具体的な取組を実施することとなる。

宿舎事業を中心とした 国立公園利用拠点の面的 魅力向上に向けた取組方針

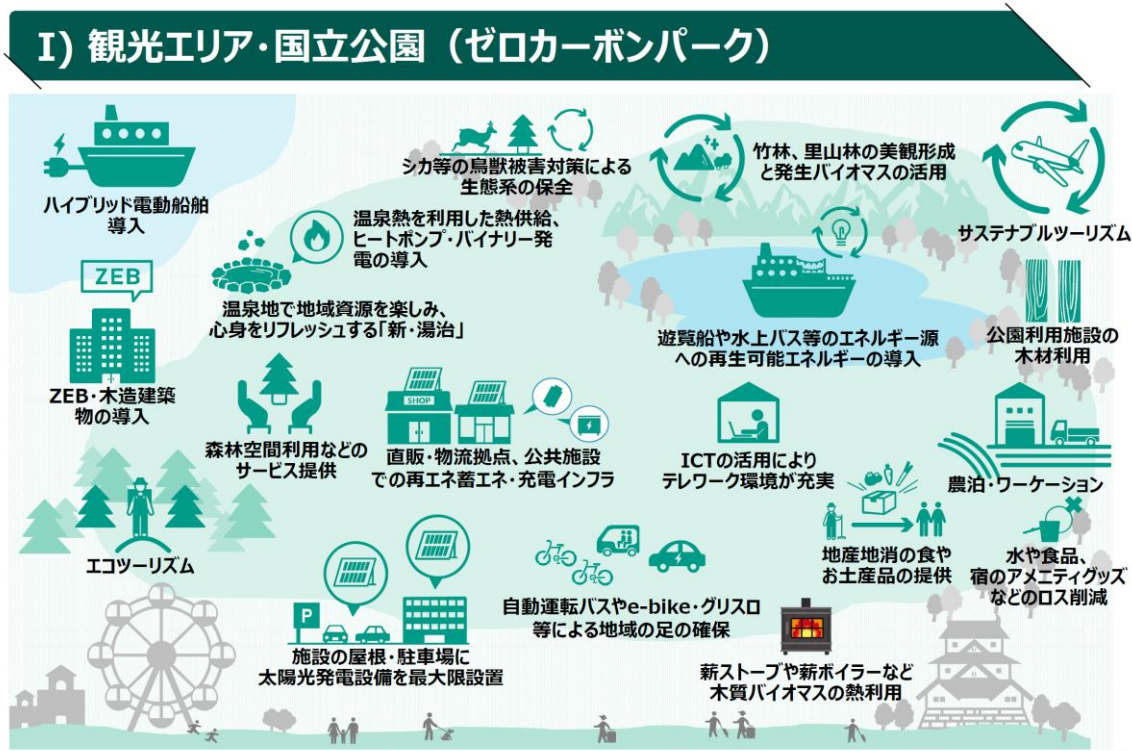
- ・ **国立公園の美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光を推進**するにあたり、高付加価値な宿泊施設及びそこでの宿泊体験の提供を中心とした、利用拠点の面的な魅力向上の具体的なモデル事業を実施するもの。
- ・ 上記の実施にあたり、民間提案を取り入れながら宿泊事業を中心とした国立公園利用拠点の面的な魅力向上に取り組むにあたっての方向性と、その最先端モデルを構築する具体的手順を取組方針として整理している。
- ・ 2023年8月に3つの国立公園（十和田八幡平、中部山岳、大山隠岐）が先端モデルとして選定されている。

出所：東川町「天人峡プロジェクト」リーフレット、「Discover Higashikawa 水と写真の町の楽しみ方」、環境省ウェブサイト「大雪山国立公園 特徴」
(<https://www.env.go.jp/nature/nationalparks/list/daisetsuzan/feature/>)

2-2. 国立公園活性化にかかわる動向

- 国立公園においては、公園内の自然を保護するのみにとどまらず、脱炭素化・脱プラスチック化等サステナブルな観光地を目指す「ゼロカーボンパーク」への登録が進んでいます。具体的には、電気自動車の導入や公園内施設での再エネ活用、エコツーリズムの提供など、ハード（利用拠点）／ソフト（自然体験）面で脱炭素への取組を行っています。
- 天人峡地区においても、ゼロカーボンに向けた取組が重要であると考えられます。

ゼロカーボンパーク 概要



出典：内閣官房HP 地域脱炭素ロードマップ（概要）より ※このページに表示しているイラストは先行地域そのもののイメージであり、先行地域の外から再エネを供給する再エネ立地地域のイメージは紙面の都合上記載していない。

ゼロカーボンパーク 一覧

※2023年8月末時点での登録状況

国立公園	自治体
阿寒摩周	釧路市、弟子屈町、美幌町、足寄町
釧路湿原	釧路市
支笏洞爺	千歳市
磐梯朝日	福島市
日光	那須塩原市
尾瀬	片品村
妙高戸隠連山	妙高市
中部山岳	松本市
伊勢志摩	志摩市
伊勢志摩	鳥羽市
瀬戸内海	廿日市市
雲仙天草	雲仙市
三陸復興	宮古市
大雪山	美瑛町
大山隠岐	隠岐の島町
知床	羅臼町、斜里町
伊勢志摩	南伊勢町

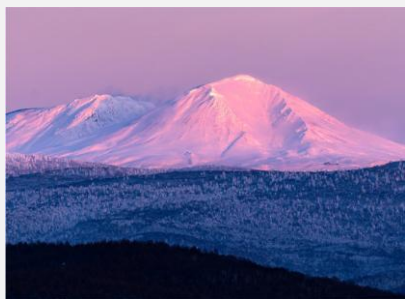
（出所）環境省「ゼロカーボンパークの推進」https://www.env.go.jp/nature/post_134.html

3. 東川町および天人峡地区の現況

3-1. 東川町の特長

- 北海道最高峰・旭岳をはじめとする自然や、特に旭岳地区・天人峡地区においては温泉に恵まれています。
- 写真や家具に代表される文化・産業面でも世界的知名度があるほか、大雪山系の水に育まれた「東川米」に代表されるグルメ等も充実しています。

自然・温泉



- 日本最大の山岳国立公園：大雪山国立公園の入口の町である。
- 景勝として、北海道最高峰にして大雪山連峰の主峰「旭岳」と北海道一の落差を誇る「羽衣の滝」（落差270m）を有し、多くの観光・登山客が訪れる。
- 旭岳の中腹の原生林に囲まれた**旭岳温泉**と、その裾野の渓谷に湧く**天人峡温泉**の二つの温泉地が存在する。
- **世界一の雪質とも言われ最上級のパウダースノー**を誇る旭岳にはコアなスキーヤーやスノーボーダーが多く訪れる。

文化・産業



- 1985年の「写真の町宣言」、2014年の「写真文化首都」宣言に基づき、写真による町おこしを実施。
- 数々の著名写真コンクールを開催。また、町内のどこを撮影しても「**写真映りの良い町**」を目指して景観の保護と魅力の向上に取り組んでいる。
- デザイン性の高い「旭川家具」の産地で、町有「**織田コレクション（※）**」は国際的に高く評価されている。近年は隈研吾氏とのコラボレーションも進む。
(※) 織田憲嗣氏が蒐集した家具・日用品のコレクション。

体験・グルメ



- 東川町は大雪山の伏流水で育った東川米があり、それらの資源を活用した食事を提供しているという**移住者による飲食店**が多数営業しており、新たな周遊観光のスポットとしての取組を図っている。
- **冬季のスキー**を中心として登山、カヌー、ラフティング、サイクリング、農業体験など**季節・場所に応じたアクティビティ体験が可能**。

3-2. 天人峡地区の特長

- ・ 天人峡地区は大雪山西麓の重要な景勝地の一つで、東川町と美瑛町にまたがって位置しています。
- ・ 北海道一の落差約270mを誇る羽衣の滝や、忠別川の両岸に連なる柱状節理の岩壁と優れた河畔林からなる渓谷景観を鑑賞できるほか、登山の起点としても知られます。

天人峡地区の主たる観光資源



天人峡温泉

天人峡温泉

温泉旅館「御やど 株式会社しま荘」が唯一現在でも営業を継続しているほか、渓谷景観を見ながら温泉を楽しめる簡易的な温浴施設「天女の足湯」がある。

巨木の森

天人峡に向かう森はクルミの沢と呼ばれ、巨木の多い森が広がる。特に「森の神様」と呼ばれる樹齢900年の桂の木は、林野庁「森の巨人達100選」にも選ばれている。



登山・沢登り

化雲岳登山と縦走の起点として知られる。
化雲岳登山口からトムラウシ山方面へ、あるいは旭岳温泉コース登山口から旭岳方面に向かうことが可能。
また、クワウンナイ川は沢登りの名所として知られる。



羽衣の滝

羽衣の滝

北海道一の落差約270mを誇る名瀑。日本の滝100選にも選ばれている。
※例年冬季（おおむね11月～5月上旬）は通行止めとなる。また現在は廃屋化した建物の横を通らなければアクセスできない。

敷島の滝

落差20m、幅60mあり、「東洋のナイアガラ」とも称される名瀑。



柱状節理

渓谷景観

忠別川両岸の岸壁は、多角形の柱が連続して立っているような独特の形状である。これは、噴火で噴出した火砕流堆積物がゆっくりと冷え固まる際に規則正しく割れが生じる柱状節理という現象と、これらの岩石を河川が削り取る浸食作用により生まれた風景である。
岸壁と優れた河畔林が相まって、美しい景観を形成している。

出所：東川町「天人峡プロジェクト」リーフレット、「Discover Higashikawa 水と写真の町の楽しみ方」、環境省ウェブサイト「大雪山国立公園 特徴」(<https://www.env.go.jp/nature/nationalparks/list/daisetsuzan/feature/>)

3-2. 天人峡地区の特長

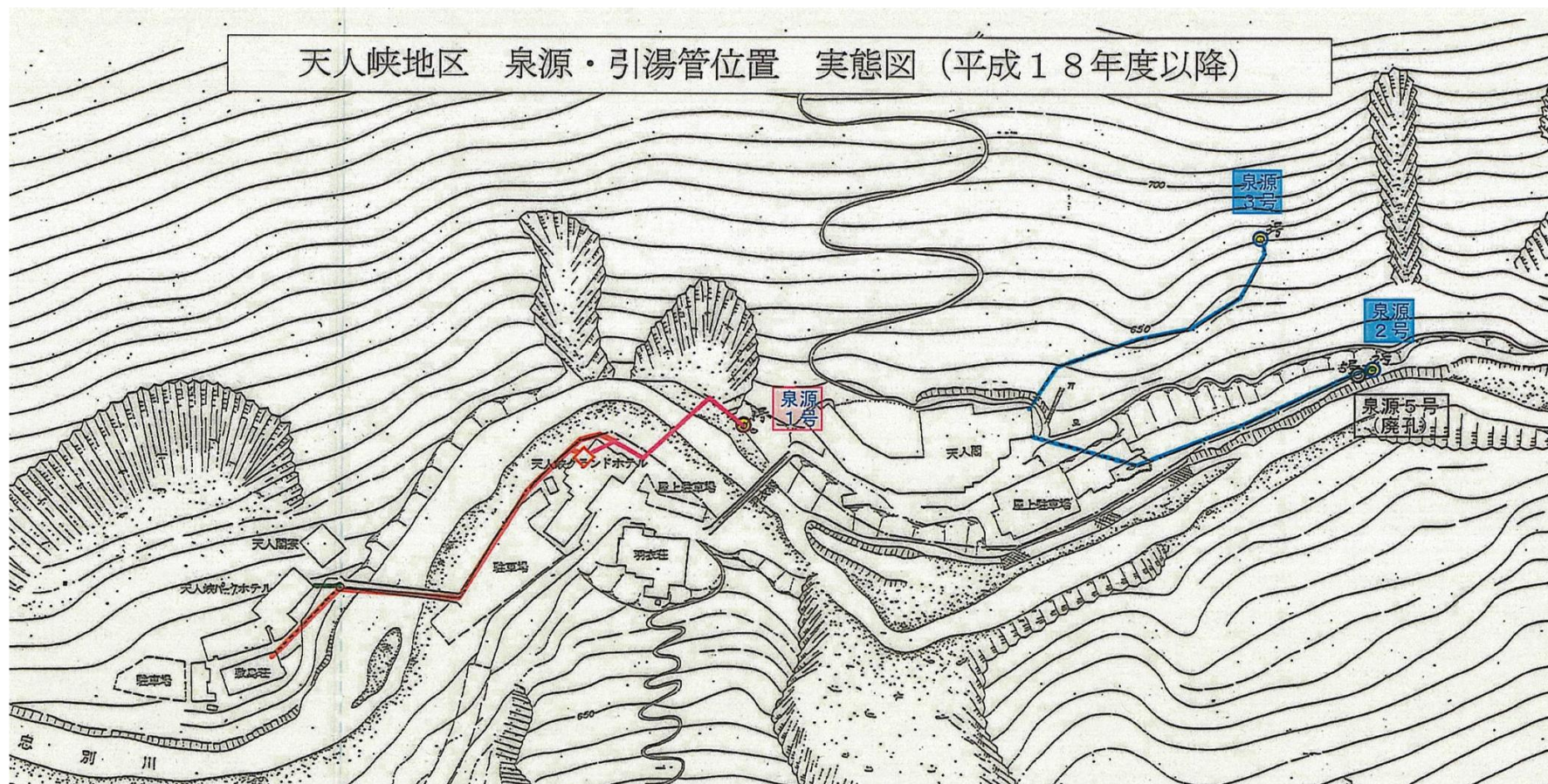
- ・ 天人峡地区内の観光資源等の位置関係は以下に示す通りです。

天人峡地区内の観光資源



(参考) 天人峡地区の泉源の状況

天人峡地区の泉源の状況



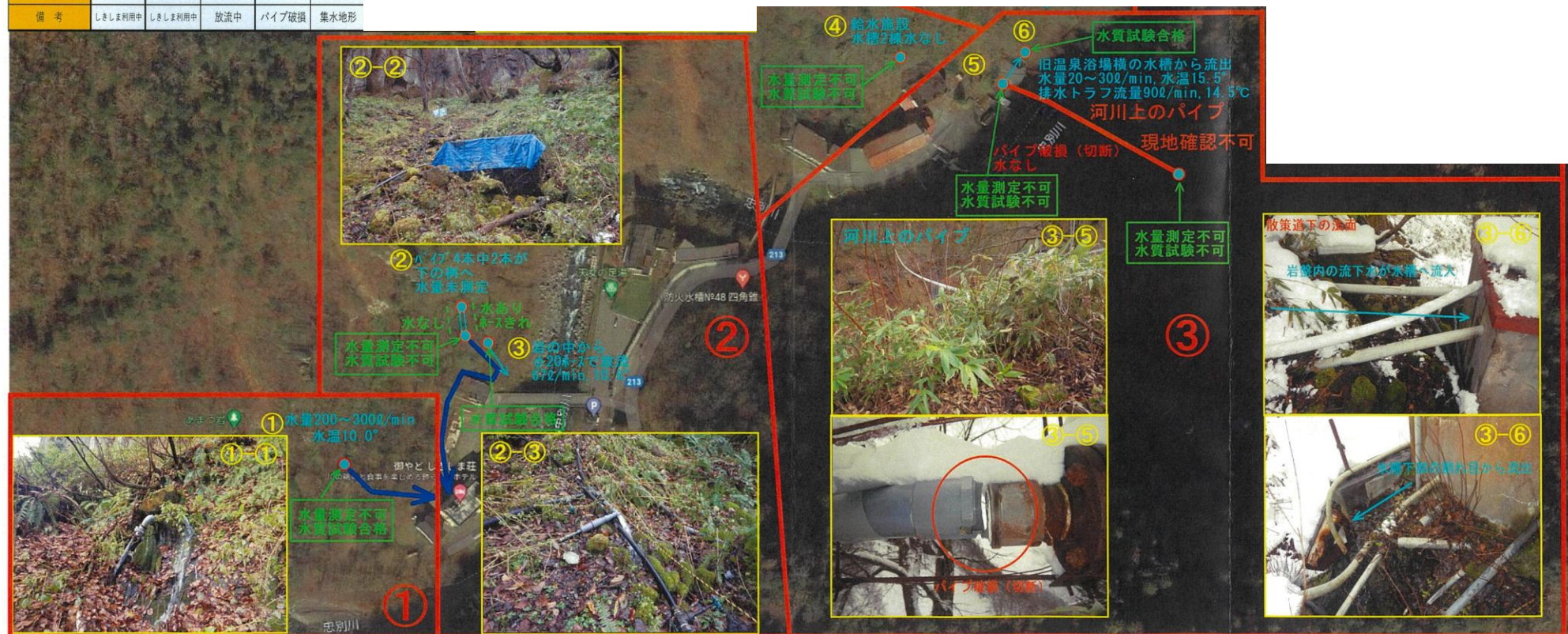
- 地域には現在、3か所の泉源が確認されていますが、泉源3号については量が少ないため、一般利用は見込めない状況です。
- 安定的に利用が見込めるのは泉源1号と泉源2号です。

(参考) 天人峡地区の水源の状況

天人峡地区の水源の状況

ブロック	①	②	③	
種別	流下水	流下水	流下水	— 流下水
地点	①-①	②-②	②-③	③-⑤ ③-⑥
水温(℃)	10	未測定	10.6	— 15.5
水量(ℓ/min)	200~300	未測定	67	— 20~30 排水1790
水質(13項目)	合格	未測定	合格	— 合格
泉質	—	—	—	—
可燃性ガス	—	—	—	—
備考	しきしま利用中	しきしま利用中	放流中	パイプ破損 棄水地形

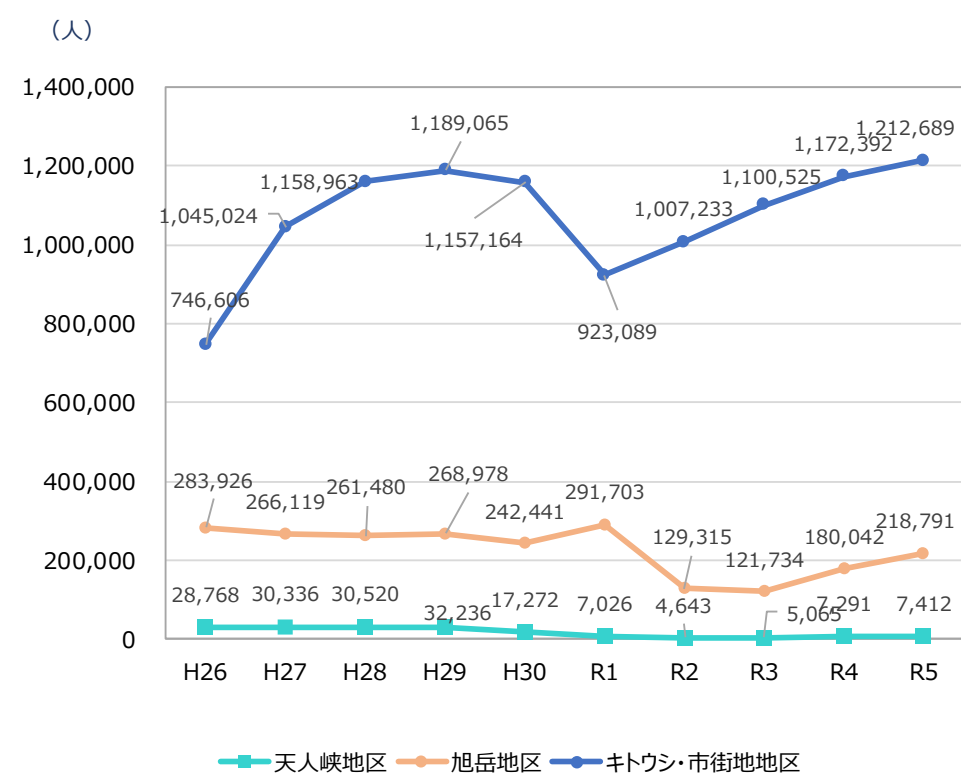
- 地域には現在、3か所の水源について確認されています。利用されているものとしては、しきしま荘側にある水源2か所となっています。
- 天人閣側では遊歩道下側にある水源1か所となっています。



3-3. 東川町の課題

- 町内の地点間で入込客数を比較すると、キトウシ・市街地地区の入込客数が突出して多い一方、天人峡地区の入込客数は長期にわたって落ち込んでいます。
- 道・上川管内全体と比較して、宿泊客と道外客の割合が低く、近隣からの日帰り客が大多数を占める構造です。

観光入込客の推移



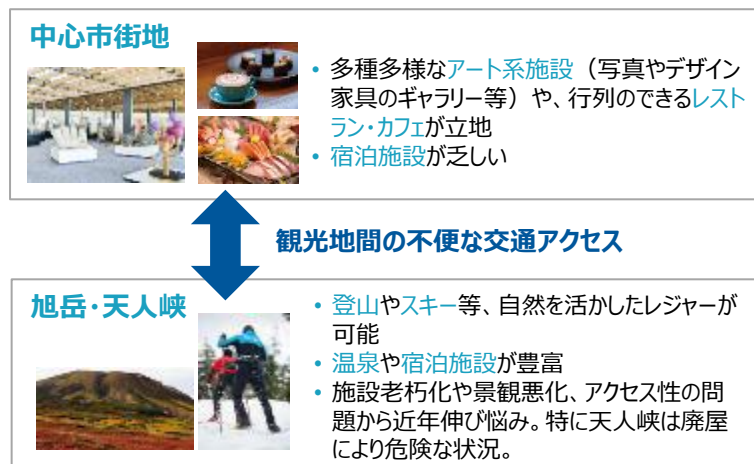
	東川町	上川管内	北海道
宿泊客（千人）	85	2,595	24,695
日帰り客（千人）	1,354	15,860	121,491
宿泊客（％）	6％	14％	17％
日帰り客（％）	94％	86％	83％
道内客（千人）	1,218	11,079	105,293
道外客（千人）	220	7,376	40,892
道内客（％）	85％	60％	72％
道外客（％）	15％	40％	28％

（出所）東川町行政事務報告書、北海道観光入込調査報告書(R5_資料編)を参照して作成

3-3. 東川町の課題

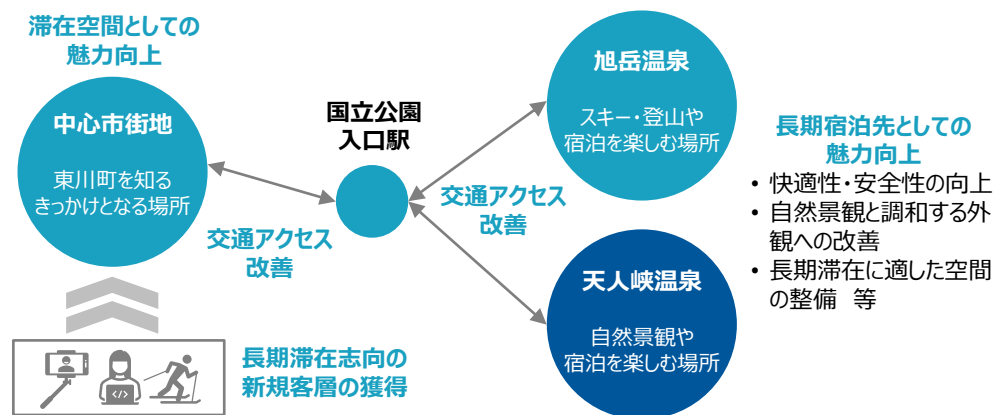
- 前頁の通り、東川町では入込客が中心市街地に集中し、宿泊施設が立地する旭岳・天人峡地区まで送客されないことから、日帰りの滞在にとどまってしまうという構造的な課題があります。これは宿泊施設が豊富な地区の廃屋等による魅力低下、不便な交通アクセス等、複合的な要因に起因します。
- これらを解決することで、「**中心市街地をきっかけに町を知り、長期滞在して町域全体を回遊・宿泊し、東川の暮らしの魅力を知る**」観光の流れを創出することが望めます。

東川町の観光の構造的課題



観光客が町内を回遊しないため、
宿泊客を獲得しにくい

ありたい姿



- 本町は「写真文化首都」として美しいまちづくりに取り組み、民間の「街の住みここちランキング」でも全国的に上位に位置するなど、移住先として注目を集めている。また、旭川空港から車で約10分と至便の立地である。
- しかしながら、特に観光面では「**入込客数が中心市街地に集中している**」「**宿泊客の割合が低い**」等の課題がある。
- これは「観光地として魅力的な中心市街地には宿泊施設が乏しい」「宿泊施設が豊富な天人峡・旭岳地区等は施設の老朽化・廃屋等により魅力が低下しており、中心市街地からの交通アクセスも良好でないため、十分宿泊客を獲得できていない」等の課題に起因している。

- 左記の構造的課題を解決することで、「**中心市街地をきっかけに町を知り、町域全体を回遊・宿泊し、東川の暮らしの魅力を知る**」観光の流れを創出し、**長期滞在型観光拠点への進化**を図ることが望まれる。
- その実現手段としては、例えば以下のような実施項目が考えられる。
 - 中心市街地と天人峡の一体的な滞在イメージの発信
 - 天人峡地区の滞在体験の魅力向上
 - 回遊性の向上（交通アクセス改善等）

3-4. 天人峡地区の課題

- ホテルが廃墟化し、景観等が悪化していました。廃屋以外にも、地区内には現在通行困難になっている登山道等が存在し、十分に魅力が発揮できない状況です。
- 近年北海道内でも季節ごとの寒暖差が激しくなっていることから、宿泊施設の快適性向上等の対策が必要です。

景観悪化を招く施設の存在

- 天人峡温泉地区は「天人閣」と「天人峡グランドホテル」が廃屋化した。両ホテルは放置すれば安全性や景観悪化等の懸念から観光客に敬遠されかねない状況であった。
- 東川町と関係機関で大雪山国立公園天人峡地区魅力向上検討会を立ち上げ、廃屋の撤去の方針を決定し、除却作業を行った（次ページ以降参照）。
- 撤去後は跡地整備を行い、例えば**散策を楽しめるエリア整備を目指す**こと等が検討されている。

天人峡の廃屋



季節ごとの寒暖差による不十分な快適性

- 北海道は「夏でも涼しく、エアコンが必要ない」という印象を持たれることが多いが、近年は**最高気温が30℃を超える真夏日となることも多い**。また、**冬期は平均最高気温がマイナスで、-20℃を超える日もある極寒の地域**である。そうした環境でも観光客が快適に過ごせる環境整備が必要である。
- 他方、既存宿泊施設では設備の老朽化等も進行している。空調・熱源・風呂等の身体を温めるための設備や、雪庇や転倒防止といった危険性を取り払う改修が必要となっている。

自然現象による景観の変化

- 羽衣の滝全体を正面から眺望できる「見晴台」が設置されていたが、2013年に発生したがけ崩れの影響で全壊した。
- 現在、対岸側から眺望できるようにはいるものの、成長した天然木によって視界が遮られ、全景を見ることができない。

通行困難な遊歩道・登山道

- 敷島の滝までの遊歩道は現在廃止されているため、観光客は立ち入れない状況である。これは、大雨等でたびたび簡易的な橋や道が流されたこと、安全確保が困難であること、利用者が少なかったこと、敷島の滝の中央部洗堀により滝幅が狭くなって魅力が薄れたこと等に起因する。
- 天人峡一旭岳間の登山道も現在通行止めとなっている。これはそもそも危険であったこと、土砂崩れにより登山道が流されたこと、利用客が少なく新たな迂回ルート構築も難しかったこと等に起因する。
- 天人峡一トムラウシ山（滝見台）は、最初からの難所、通称「三十三曲がり」（33の曲り道があり）があり、旧登山道でもあり狭くて急なカーブを登ることから始まるため、一般の方、高齢者などが簡単に楽しめるようなルートではない。

観光資源が希少

- 羽衣の滝、涙岩、七福岩などの柱状節理、滝見台など、長期滞在できる観光資源が不足している。

3-5. 課題解決に向けた取組の進捗状況

- ・ 廃墟化していた天人峡グランドホテルおよび天人閣について、観光庁「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」による補助等を受けながら、建物や設備を除却しました。

天人峡グランドホテルの解体の状況

天人峡グランドホテル（全体）

工事前



天人峡グランドホテル（本館）

工事前



天人峡グランドホテル（売店）

工事前



現在



現在



現在



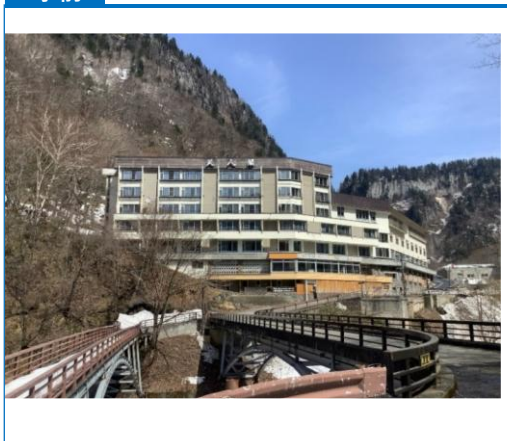
3-5. 課題解決に向けた取組の進捗状況

- 天人峡グランドホテル、天人閣についての解体作業について、盛土、埋め戻しなども含めて、令和6年12月までに完了しています。

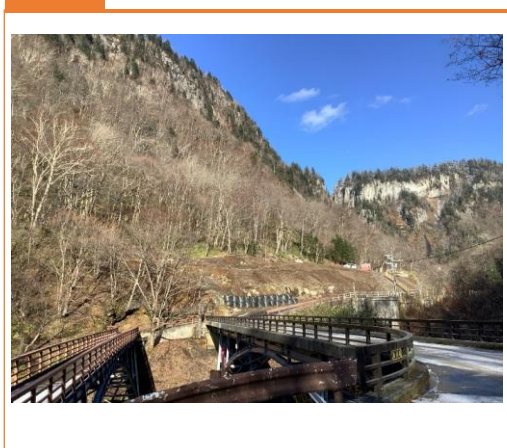
天人閣の解体の状況

天人閣（本館）

工事前

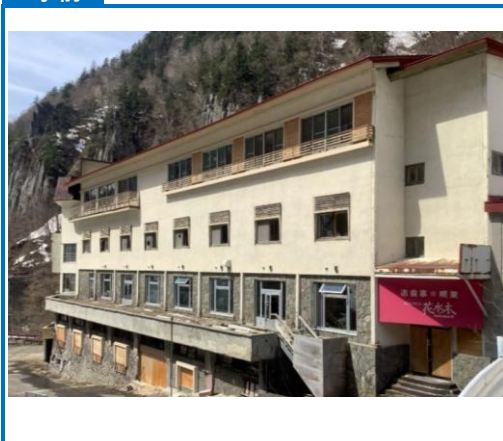


現在

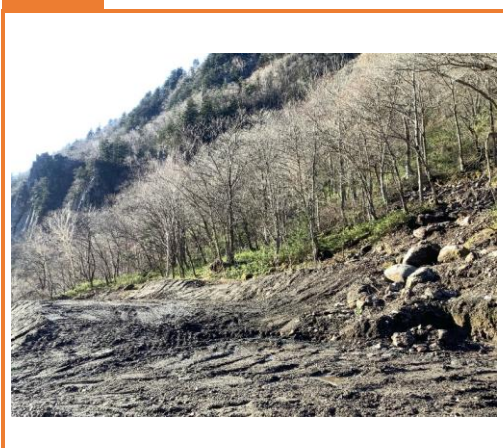


天人閣（第一別館）

工事前

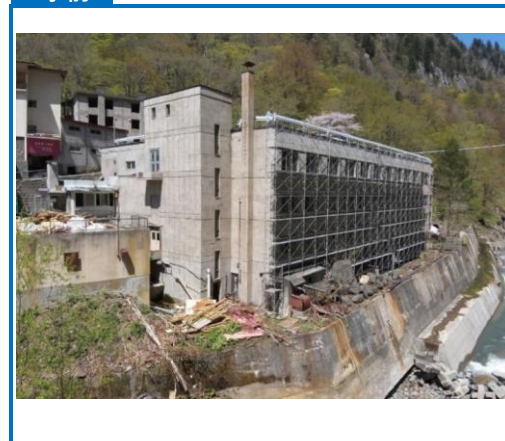


現在

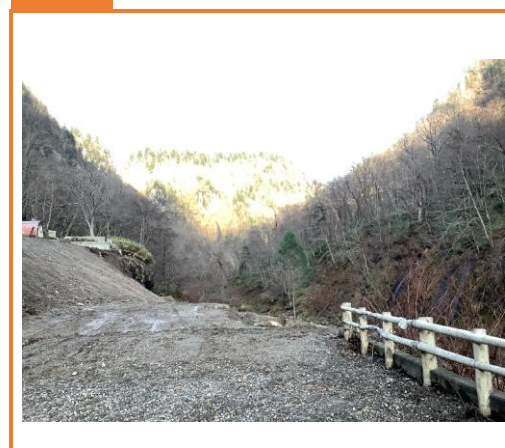


天人閣（第三別館）

工事前



現在



3-5. 課題解決に向けた取組の進捗状況

- 解体作業を終えたことで、一定程度本来の自然景観が回復された一方、両ホテル跡地の起伏が大きい地形等も明らかになりました。
- 今後はこうした現況を踏まえながら、跡地整備の検討等を進める必要があります。

天人閣の解体の状況

天人閣（全体）

工事前



天人閣（松山12寄宿舍）

工事前



天人閣（大浴場）

工事前



天人閣（松山8寄宿舍）

工事前



現在



現在



現在



現在



4. 天人峡地区再活性化に向けた基本方針

- 東川町では、まちづくりの最上位計画「新まちづくり計画2024」を策定しました。本基本方針は、上記計画で掲げる基本理念「大雪山の恵みを受けて、豊かな暮らしを共に育むまちづくり」を実現する方策の一つと位置付けます。
- 並行して、東川町では地域公共交通の見直し、ゼロカーボン実現に向けた取組（地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定等）を推進としています。本基本構想は、これらの検討と整合を図りながら推進するものとしします。

まちづくりの基本理念
大雪山の恵みを受けて、豊かな暮らしを共に育むまちづくり

```
graph TD; A[人と自然が共生する  
環境づくり] -- 関連・連動 --> B[美しく住みよいまち]; B -- 関連・連動 --> C[人と自然が共生する  
環境づくり]; B -- 関連・連動 --> D[適疎で豊かな暮らし]; D -- 関連・連動 --> E[人にやさしい  
暮らしづくり]; D -- 関連・連動 --> F[人づくり]; D -- 関連・連動 --> G[活力ある  
経済循環づくり]; E -- 関連・連動 --> H[幸福を実感できるまち]; F -- 関連・連動 --> I[人を育む文化と学びのまち]; G -- 関連・連動 --> J[多様なつながりによる  
価値共創が生まれるまち]; I --- K[まちづくりを支える土壌]; J --- K; H --- K; K --- L[コミュニティづくり | 対話と参加で共に歩む適疎なまち];
```

人と自然が共生する
環境づくり

美しく住みよいまち

関連・連動

関連・連動

関連・連動

適疎で豊かな暮らし

人にやさしい
暮らしづくり

幸福を実感できるまち

人づくり

人を育む文化と学びのまち

活力ある
経済循環づくり

多様なつながりによる
価値共創が生まれるまち

まちづくりを支える土壌

コミュニティづくり | 対話と参加で共に歩む適疎なまち

まちづくりの基本目標

基本目標1 人づくり | 人を育む文化と学びによるまちづくり

基本目標2 人にやさしい暮らしづくり | 幸福を実感できるまちづくり

基本目標3 活力ある経済循環づくり

多様なつながりによる価値共創が生まれるまちづくり

基本目標4 人と自然が共生する環境づくり | 美しく住みよいまちづくり

基本目標5 コミュニティづくり | 対話と参加で共に歩む適疎なまちづくり

4-1. 基本的な考え方

- 本基本構想においても、基本方針と同様、引き続き適疎で豊かな暮らしづくりに寄与すること、自然と共生する温泉地づくりを進めること、関係主体が協働して着実に取組を進められることを重視します。

基本的な考え方

1. 適疎で豊かな暮らしを育むための取組の一環として実施します

- 東川町はこれまで過密でも過疎でもない、程良いゆとりのある「適疎なまちづくり」を推進してきました。本基本方針もその延長線上で策定するものであり、新まちづくり計画2024 基本目標3「多様なつながりによる価値共創が生まれるまちづくり」に寄与する取組と位置付けられます。
- 天人峡は東川の文化や暮らしの原点がある場所です。「適疎で豊かな暮らし」に共感する方により長く町内に滞在し、より幅広い町の魅力を知っていただくことで、株主制度をはじめとする町外の方との共創の取組の輪を広げること、定住等に結び付けていくことを目指します。

2. 自然との共生を重視します

- 天人峡地区は国立公園内に位置し、貴重な自然資源が数多く存在する場所です。しかしながら、廃屋の存在やインフラの不足により、それらの魅力が十分に発揮されない状況にあります。本基本方針では、大々的な開発を想定するのではなく、天人峡の自然のありのままの魅力を尊重しながら、それらがより発揮されるよう取り組みます。
- また、ゼロカーボンに取り組む適疎な町宣言や地球温暖化対策実行計画策定等、東川町が進めるゼロカーボンに向けた取組とも歩調を合わせます。

3. 関係主体が協働し、着実に実施できる取組とします

- 通行する人に危険を及ぼす廃屋の存在をはじめ、天人峡地区が抱える課題はいずれも深刻であり、確実かつ迅速に取り組むべきものです。様々な関係主体が協働し、それぞれの役割を果たしながら、解決に向けて行動することが必要です。
- 理想を掲げつつも現実的な事業として実施する必要があることから、関係者が連携して着実に取り組むことができるよう、実施すべき事項を整理します。

4-2. 天人峡地区のありたい姿の方向性

- 再活性化にあたっての天人峡地区のありたい姿として、ありのままの自然を活かすことを大前提としながら、①秘境・特別な場所とする、②より親しみを感じる場所とする の2つの方向性が考えられます。
- 天人峡地区内の各地点の状況に応じ、①②を適切に組み合わせ、全体としての「ありたい姿」を構想するものとします。

天人峡地区のありたい姿の案

案① 秘境・特別な場所

- 秘境や神聖・特別な場所としてのイメージを活かす。
- 自然に手を加えるのは最小限とし、ある程度リスクを許容した上で、ネイチャーガイド等の同行を前提に立ち入る場所とする。
- あえて容易に立ち入れない場所とすることで、困難を乗り越えて自己変革を促す「トランスフォーマティブトラベル」の文脈に位置づけることも考えられる。



事例：知床・カムイワッカ湯ノ滝のぼり

- 知床五湖から原生林に囲まれた林道を10kmほど進んだ奥地にある、お湯が流れる滝を登るアクティビティ。
- 当該アクティビティの参加者以外は川に立ち入ることができない。また、参加者には事前に十分な準備を行うことを求めている。

案② より親しみを感じる場所

- 東川の暮らし・文化の原風景がある場所であること、かつては多くの人に親しまれた場所であったことを重視し、可能な限りありのままの自然を尊重しつつも、宿泊客等がある程度気軽に散策できる場所とする。
- 上記を実現する上では園路を歩きやすく整備したり、グリーンスローモビリティ等（※）小型のモビリティ等で移動支援を行ったりすることも想定される。

（※）「(1)時速20キロメートル未満」で公道を走ることができる、「(2)電動車を活用」した、「(3)小さな移動サービス」のことを指す。



事例：宮島・グリーンスローモビリティ

- 瀬戸内海国立公園では、宮島において、令和5年にグリーンスローモビリティを活用したガイドツアーの実証実験を行った。

（出所）カムイワッカ湯ノ滝ホームページ、廿日市市ホームページを参照して作成（<https://www.goshiretoke.com/kamuywakka/>、<https://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/soshiki/131/102255.html>）

4-2. 天人峡地区のありたい姿の方向性

- 天人峡地区内のどの地点を想定するかによって、ありたい姿は異なってくる可能性があります。また、ありたい姿をどのように設定するかにより、必要な施設整備の程度やコンテンツ造成の方向性等は異なると考えられます。
- 各地点において想定される、ありたい姿に応じた想定される整備内容等の違いは以下に示す通りです。

天人峡地区内の観光資源（再掲）



- ありたい姿は天人峡地区全体で必ずしも一様ではなく、どの地点を想定するかによって適切な方向性は異なってくる可能性があります。
- また、ありたい姿をどのように設定するかにより、必要な施設整備の程度やコンテンツ造成の方向性等は異なると考えられます。（例えば右表のとおり）

ありたい姿に応じた想定される整備内容等の違い（例）

地点	想定される整備内容等	
	案① 秘境・特別な場所	案② より親しみを感じる場所
羽衣の滝	<ul style="list-style-type: none">修景伐採の実施園路は人の通行に支障ない程度に整備・管理	<ul style="list-style-type: none">修景伐採の実施園路は小型モビリティの通行を想定して整備・管理見晴らし台の再整備
敷島の滝	<ul style="list-style-type: none">ネイチャーガイド等の同行を前提として立ち入る場所とする	<ul style="list-style-type: none">園路を再整備する
登山道	<ul style="list-style-type: none">トムラウシ山方面登山道は上級者向けコースのままとする	<ul style="list-style-type: none">旭岳方面登山道を復旧する登山初心者でも滝見台にアクセスできるよう、トムラウシ山方面登山道を改良する
ホテル跡地整備	<ul style="list-style-type: none">安全性は確保しつつも、ありのままの姿を遺構として残す既存宿泊施設の改修を検討する	<ul style="list-style-type: none">公園や簡易な休憩場所等の整備を検討する既存施設の改修に加え、新規の小規模宿泊施設の誘致や、昼食提供等を検討する
交通アクセスの改善	<ul style="list-style-type: none">徒歩での通行を想定する	<ul style="list-style-type: none">徒歩での通行に加え、一部園路については小型モビリティ（例えばグリーンスローモビリティ）での通行も想定する

4-3. コンセプト及び基本方針

- 令和6年度に策定した基本方針においては、①中心市街地・キトウシ・旭岳などと天人峡の一体的な滞在イメージの発信、②天人峡地区の滞在体験の魅力向上、③回遊性の向上に取り組むことで、町域全体を観光客が周遊し、長期滞在する「ずっといたくなる」観光地を創出することを目指すこととしました。
- またその中で特に②を重点的な取組と位置づけ、①および③は今後他の施策との連動を踏まえて整理しています。

ビジョン・コンセプト

東川のくらしの源流がある場所・天人峡温泉を自然と共生する場所として再生することで、町全体を、美しい景観、豊かな文化、上質な宿泊体験を一体的に楽しめる「ずっといたくなる」観光地とし、町内外の価値共創の輪をさらに広げていく

ターゲット

適疎で豊かな暮らしに関心を有する人

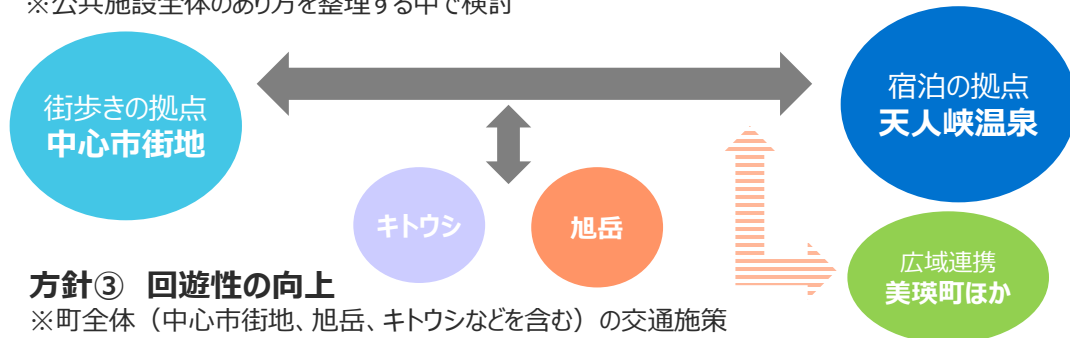
※具体的には登山、写真、自然と共生するライフスタイル等を指す。天人峡単体での集客だけではなく、中心市街地来訪者に天人峡地区への来訪や宿泊を促すことを想定

実現に向けた基本方針

自然との共生や脱炭素の推進を基本的な視点として持ちながら、以下の方針に基づく取組を進める。

方針① 中心市街地・キトウシ・旭岳などと天人峡の一体的な滞在イメージの発信

※公共施設全体のあり方を整理する中で検討



方針③ 回遊性の向上

※町全体（中心市街地、旭岳、キトウシなどを含む）の交通施策との連動等を踏まえて検討

方針② 天人峡地区の滞在体験の魅力向上

- 町内観光における天人峡地区の特長・位置づけの明確化や一貫した滞在ストーリーの提示
- 滞在体験の魅力向上に向けた基盤的整備
- 廃屋撤去・路地整備等による景観改善
- 自然と共生する上質な宿泊拠点の整備
- 自然や温泉を活かした新たな観光コンテンツの開発
- 広域的な情報発信・広域連携の検討

4-4. 各基本方針について想定される取組の方向性

- 各基本方針について、以下のとおり取組の方向性を整理しました。
- 本構想では、方針②について特に具体化を行います。

	取組の方向性	位置づけ
方針① 中心市街地・キトウシ・旭岳等と天人峡の一体的な滞在イメージの発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内公共施設のインフォメーション機能等を活用した適切な情報発信 	公共施設全体のあり方を整理する中で検討
方針② 天人峡地区の滞在体験の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内観光における天人峡地区の特長・位置づけの明確化や一貫した滞在ストーリーの提示 「東川の暮らしの源流」「森と癒し」「キバ王物語」「アイヌ文化」「サステナブルツーリズム」等、町内他観光地と異なる特長を提示し、差別化を図る ● 滞在体験の魅力向上に向けた基盤的整備 屋外のトイレや簡易な休憩スペース（ベンチ等）設置、多言語対応等のインフラ整備（海外対応看板、案内など）を想定する。また、自然景観をよりよい状態で体験できるよう、園路の整備、修景伐採、小型モビリティの運行等を検討する ● 廃屋撤去・路地整備等による景観改善 廃屋整備後、跡地の有効活用を行う ● 自然と共生する上質な宿泊拠点の改修・整備の検討 宿泊施設の充実を図る。特に既存施設については、快適性向上や脱炭素化に寄与する改修等が考えられる ● 自然や温泉を活かした新たな観光コンテンツの検討・開発 天人峡のイメージに合致する体験型のコンテンツを開発する ● 広域的な情報発信・広域連携の検討 森の神様等、東川町、美瑛町外の観光資源含め、一体的に情報発信を行う。また、表大雪エリア、上川中央部エリアなどの広域的な連携についても模索する 	特に基本構想において整理
方針③ 回遊性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 町全体（中心市街地、旭岳、キトウシなどを含む）の交通施策等と連動した回遊性向上策の検討 	町全体の交通施策との連動を踏まえながら検討

(参考) 天人峡地区の特長・位置づけの方向性

- ・ 廃屋のイメージを払拭したうえで、町内他観光地と大きくは重複せず、相互に補完するような特色を検討します。
- ・ 例えば①「東川の源流がある場所」としてのイメージを打ち出す、②「癒し」や「休息」の場所、③「文化の源流」と位置付ける等の方向性が考えられます。

町内他観光地のイメージ（例）

中心市街地 宿泊施設少



文化・ライフスタイル



グルメ・買い物

旭岳 宿泊施設多



登山



ウィンタースポーツ

キトウシ 宿泊施設多



キャンプ・パークゴルフ

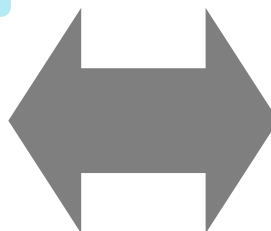


サウナ



ウィンタースポーツ

他観光地と差別化・
相互補完



天人峡地区のイメージ（例）

例① 東川のライフスタイルの源流がある場所

- 天人峡は忠別川上流に位置し、東川の稲作の始まりの場所とする伝承（羽衣伝説）がある
- 水、木、稲作等はいずれも東川の暮らしや産業を支える重要な構成要素である
- 上記を踏まえ、天人峡を「現在の東川のライフスタイルの源流がある場所」と位置付けられないか（天人峡で森について学んだあと、中心市街地で家具を見る等し、町についてより深く知る等）

例② 「癒し」や「休息」の場所

- 町内他観光地は街歩きやスポーツ等、比較的アクティブな過ごし方を想定する場所が多い。これらと対比して、天人峡は「喧騒から離れ休息する／心身の疲れを癒す場所」と位置付けることが考えられる
- 有力な観光コンテンツとしては、温泉や森を活用した森林セラピー等がありうる

例③ 東川町の文化の源流がある場所

- 動物文学の第一人者・戸川幸夫が執筆した「牙王物語」は、羽衣の滝や大雪山、旧東川村を舞台に人と動物との絆を描いており、現在も感動の名作として受け継がれている
- アイヌの人々は、その美しい大雪山をカムイミントラ（神々が遊ぶ庭）と呼び、崇敬と畏敬の対象とした

(参考) 町全体を回遊する滞在体験のイメージ

- ・ 天人峡温泉に宿泊しながら町全体を回遊する滞在プランとして、例えば以下のようなものが考えられます。

町全体を回遊する滞在体験のイメージ（夏季：写真愛好家を想定）

<1日目>

10:00 中心市街地の道の駅で
旅の情報を収集



12:00 中心市街地のカフェ等で食べ歩き



14:00 写真展を鑑賞



16:00 天人峡温泉のホテルに移動



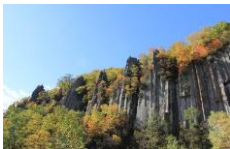
18:00 ホテルでディナー、団らん

<2日目>

8:00 ホテルで朝食



10:00 天人峡の柱状節理や
羽衣の滝の写真撮影



16:00 モビリティで中心市街地へ
奥泉で映画鑑賞・ディナー



21:00 ホテルへ帰着

<3日目>

8:00 ホテルで朝食



9:00 モビリティで旭岳エリアへ
初心者向けコースを歩きながら
夏山の写真撮影



16:00 ホテルの温泉で疲れを癒し、
ゆったり過ごす



<4日目>

8:00 ホテルで朝食



10:00 中心市街地でギャラリー巡り



13:00 中心市街地のカフェでランチ



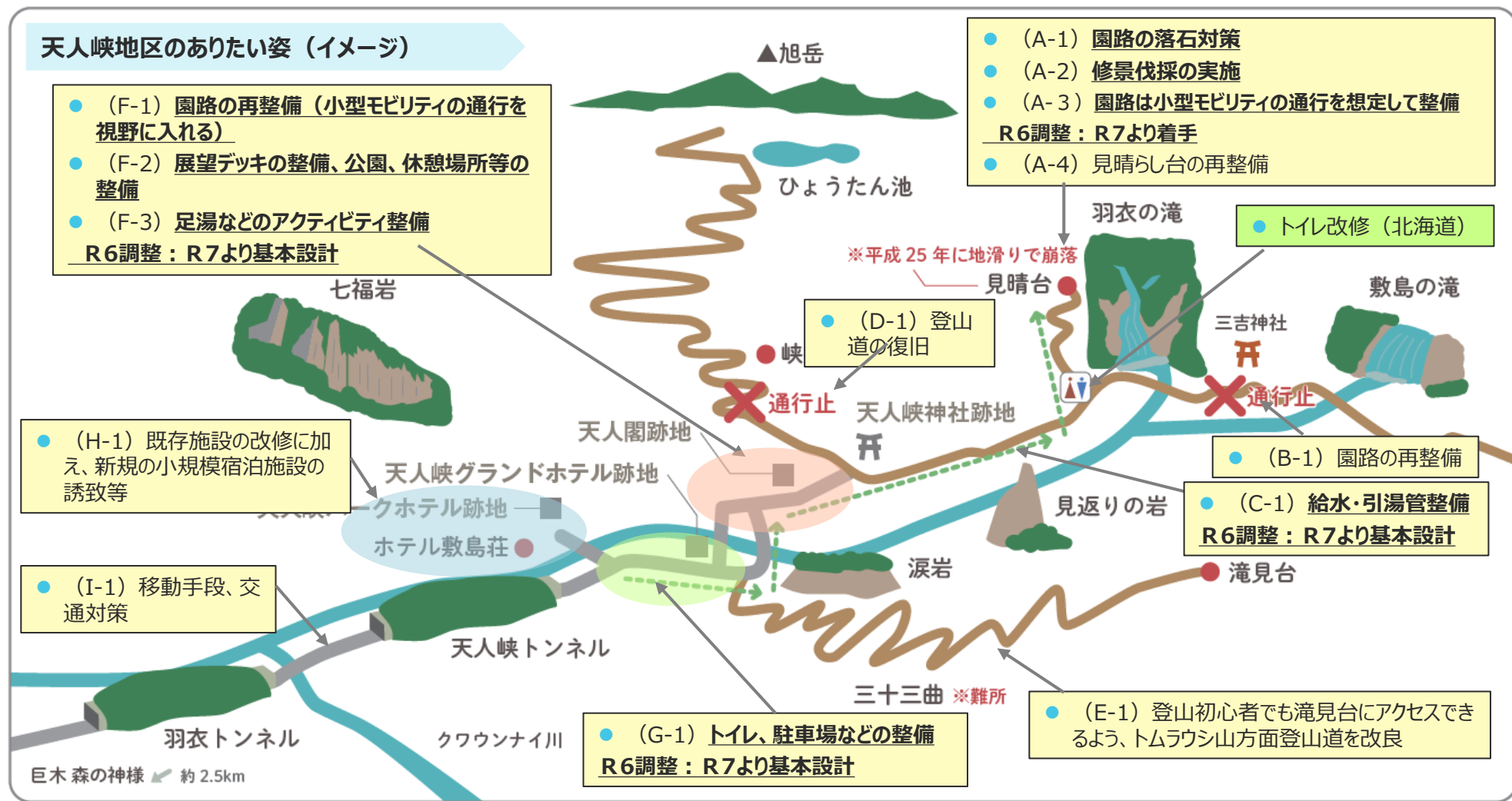
14:00 コーヒー焙煎所で地元
写真家とのコラボ商品を購入



16:00 旭川空港へ

4-5. 天人峡地区のありたい姿

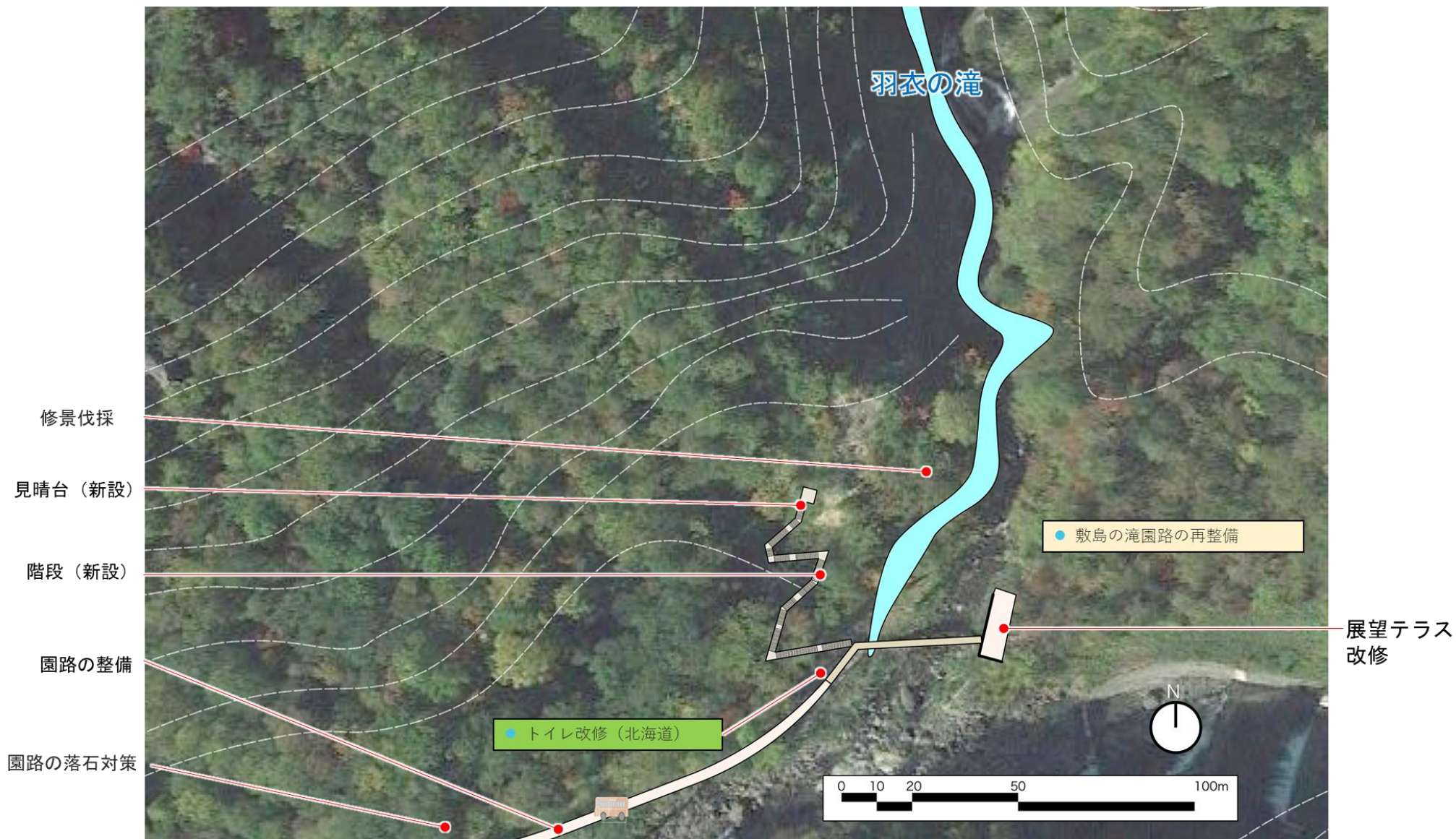
- コンセプトおよび基本方針、取組の方向性を踏まえ、本基本構想では、地区内の各地点ごとに将来ありたい姿を整理しました。今後町内外の関係者との協議を進め、各主体の意向を踏まえながら詳細検討を行います。



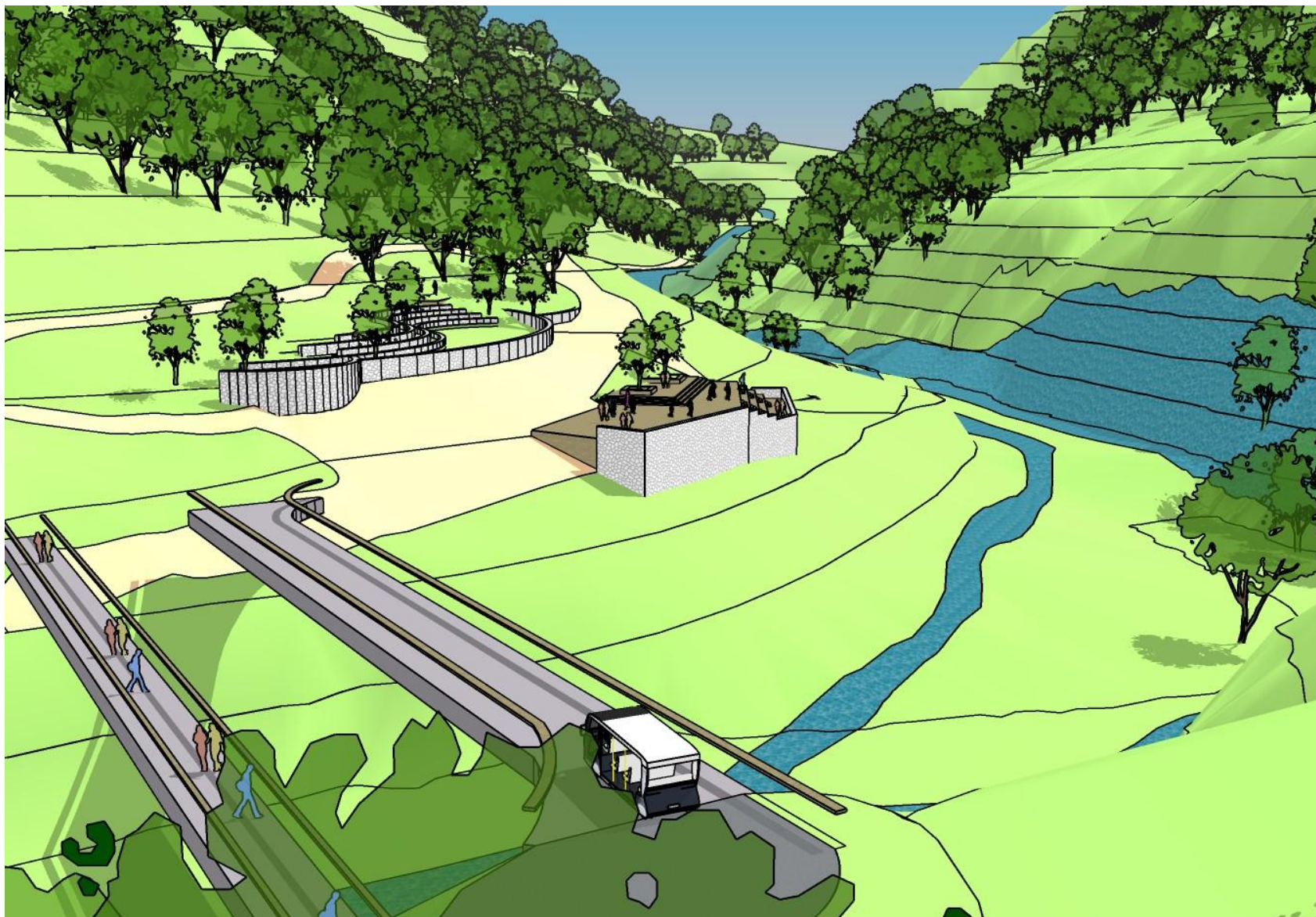
4-5. 天人峡地区のありたい姿（詳細イメージ）



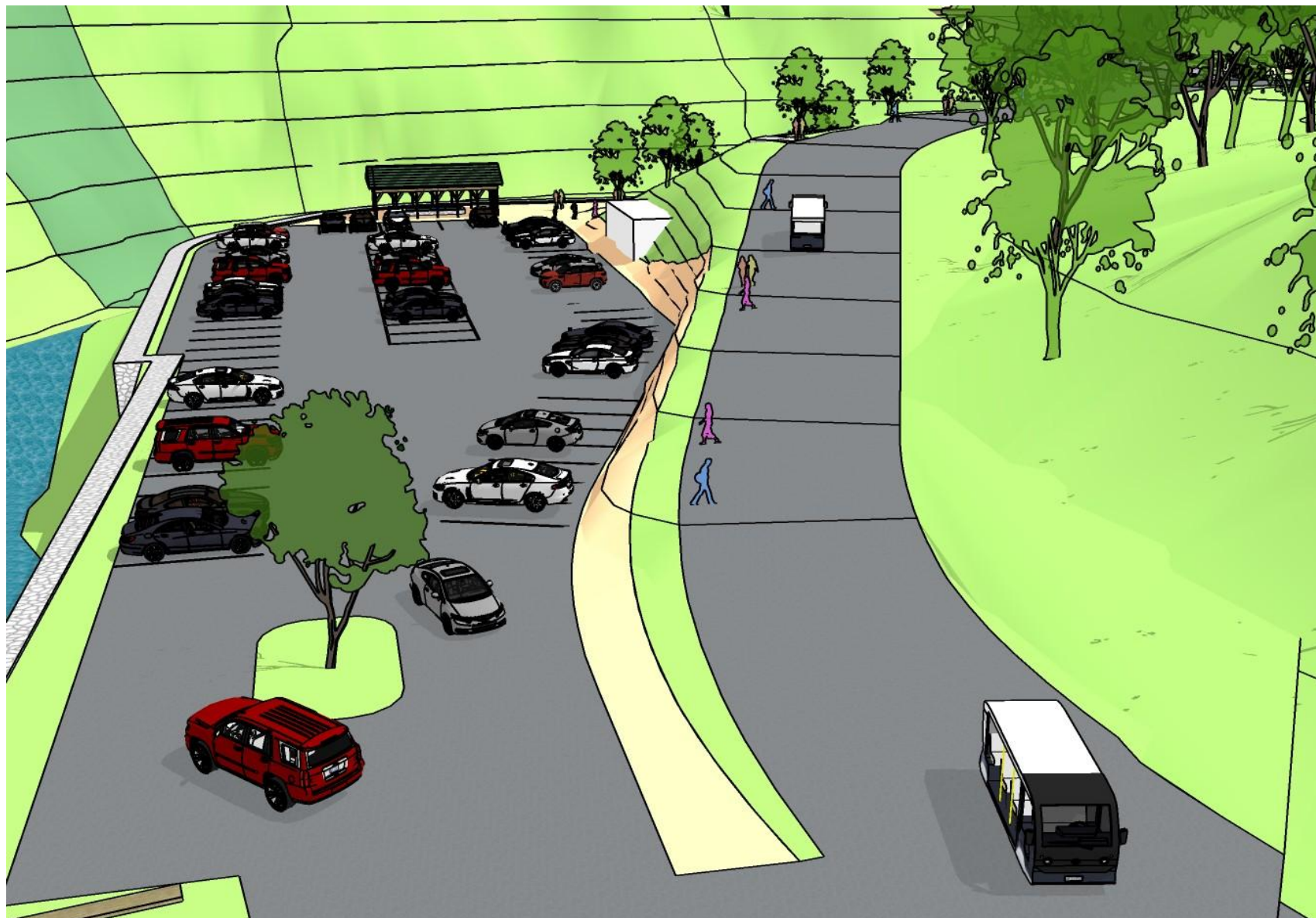
4-5. 天人峡地区のありたい姿（詳細イメージ）



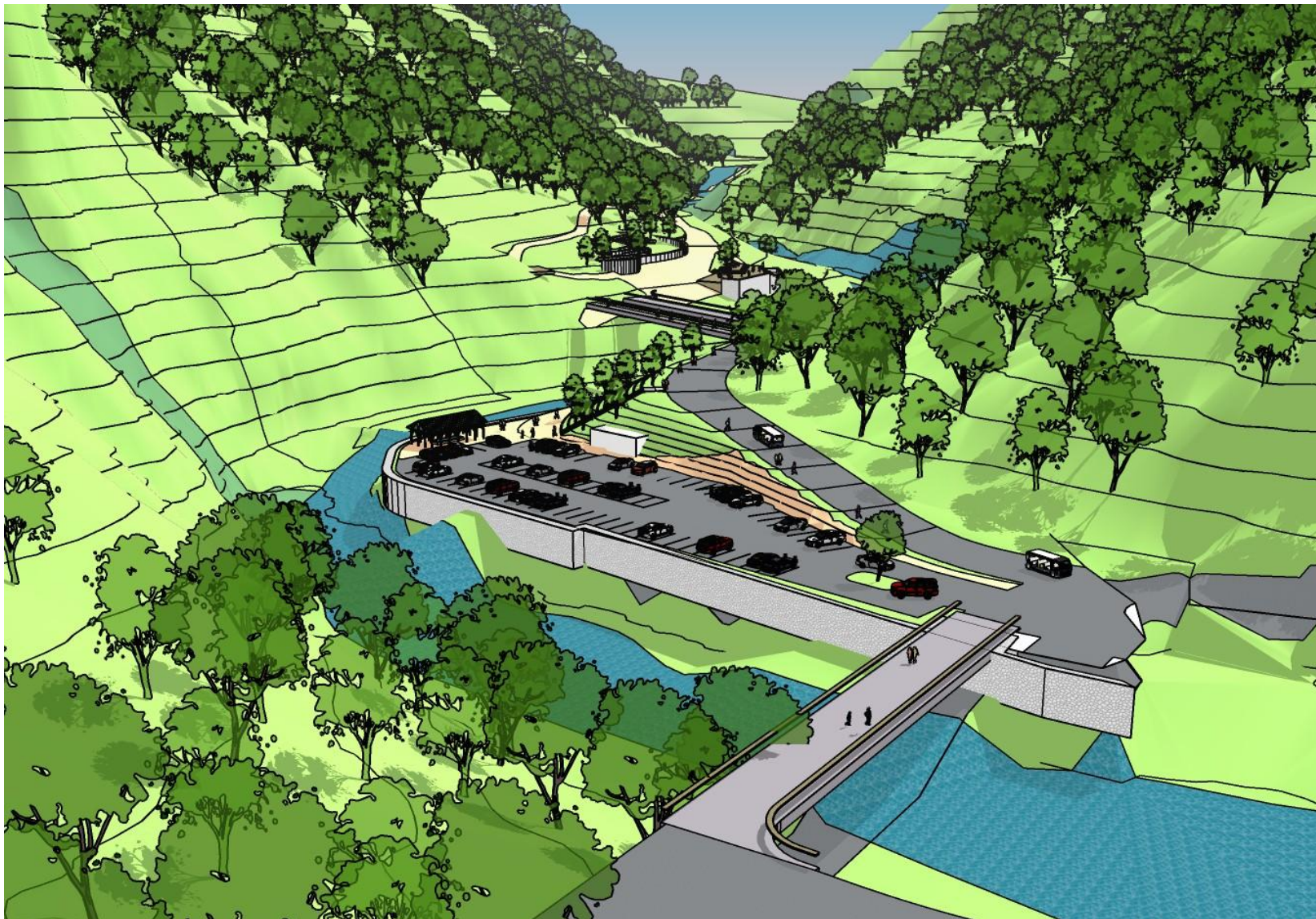
3-5. 天人峡地区のありたい姿（詳細イメージ／立面図）



3-5. 天人峡地区のありたい姿（詳細イメージ／立面図）



3-5. 天人峡地区のありたい姿（詳細イメージ／立面図）



3-5. 天人峡地区のありたい姿（詳細イメージ／立面図）

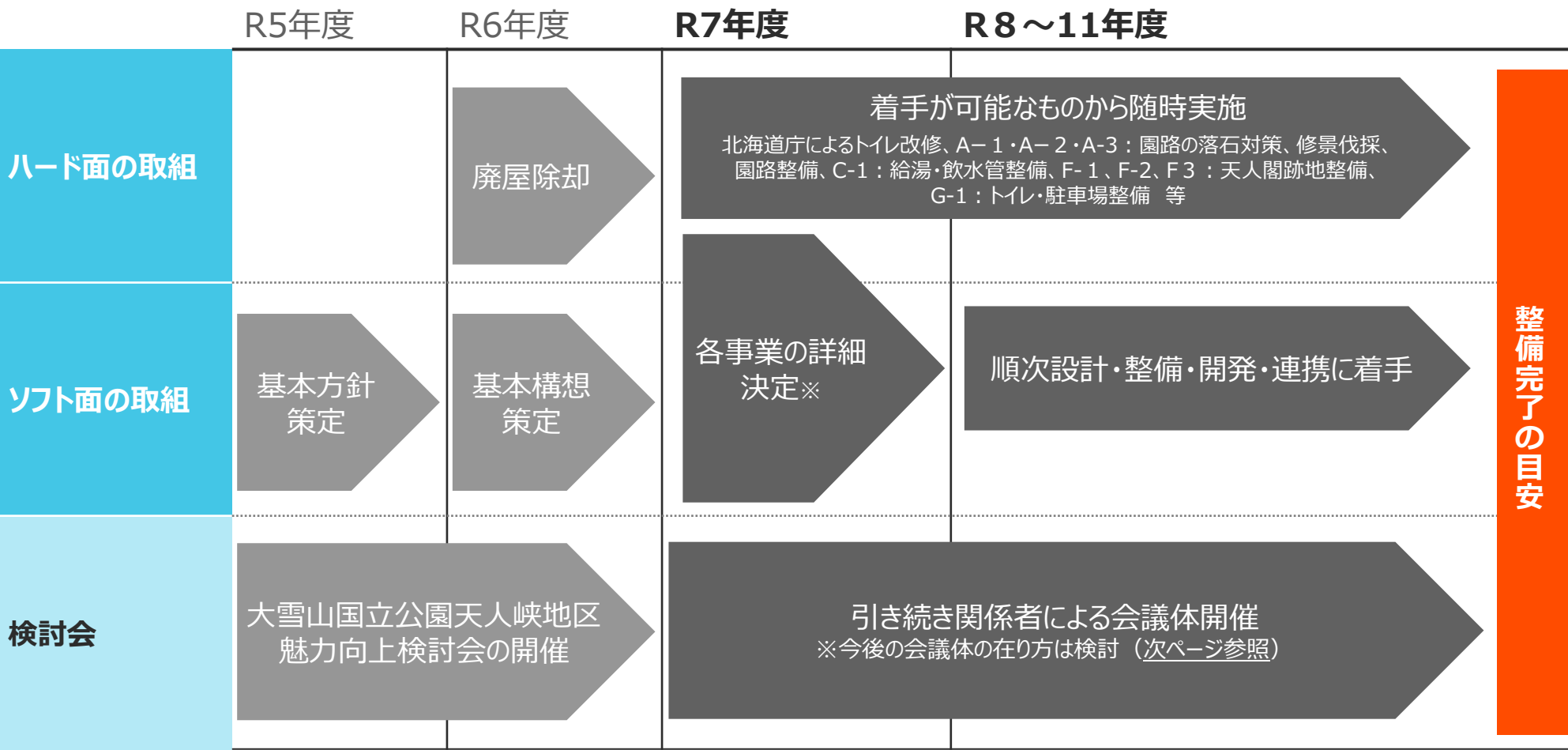


5. 今後に向けたロードマップ°

5-1. 今後の検討スケジュール（案）

- 令和11年度までに必要な整備が完了することを目指し、ハード面、ソフト面の取組を進めます。

今後のスケジュール（案）



※特に大型の事業について、スキーム、各関係主体の役割・リスク分担、具体的な整備内容等の掘り下げを検討

5-2. 今後の検討体制（案）

- これまで天人峡地区再活性化に関する取組は、大雪山国立公園天人峡地区魅力向上検討会において関係者間の共通認識を醸成しながら進めてきました。天人峡地区が国立公園内かつ東川・美瑛両町にまたがって立地していることを鑑みると、今後も関係者が相互に連携・役割分担しながら取組を進めることが重要であると考えられます。
- 他方、個別具体の取組については関係者間の緊密な協議が必要になると考えられることから、下図に示す通り、跡地整備に向けた事務レベルの打ち合わせを、必要に応じて開催することを想定します。

今後の検討体制（案）

